

# Flex 4 and LiveCycle Data Services 3: Data Driven Development

- Web サービスへのアクセス
  - Web サービスの利用
  - Web サービスメソッドの呼び出しと結果の利用
  - ウォークスルー1 : Web サービスの利用
  - イベントハンドラによる実行結果の処理
  - ウォークスルー2 : result イベントの利用
  - 障害の処理
  - ウォークスルー3 : fault イベントの利用
  - 同一の WebService オブジェクトからの複数メソッドの呼び出し
  - ウォークスルー4 : <s:operation> コンパイラタグの利用
  - Web サービスへのパラメータの送信
  - ウォークスルー5 : Web サービスへの値の送信
- リモートオブジェクト接続の利用
  - LCDS / BlazeDS について
  - リモータイングサービスとは
  - ウォークスルー1 :  
ローカルの RemoteObject プロキシを介したリモートメソッドの実行
  - RPC イベントの処理
  - ウォークスルー2 :  
RemoteObject の result および fault イベントの処理
  - 複雑なリモートメソッドの呼び出し
  - ウォークスルー3 : メソッド単位のハンドラ指定とパラメータの受け渡し
  - ActionScript と Java 間のデータ転送時の型変換
  - ウォークスルー4 :  
リモートメソッド呼び出しでのバリューオブジェクトの送信
  - AsyncToken による RemoteObject イベントの管理
  - ウォークスルー5 :  
AsyncToken による RemoteObject イベントの処理
  - リモータイングサービスの実行時設定
  - ウォークスルー6 : 宛先のチャンネルを実行時に設定

- クライアント上でのデータ管理
  - コレクションクラスとは
  - クライアント上でのデータのフィルタリング
  - ウォークスルー1 : クライアントでのデータのフィルタリング
  - クライアント上でのデータのソート
  - ウォークスルー2 : データのソート
  - IViewCursor インターフェイスの利用
  - ウォークスルー3 : カーソルによるデータの検索
  
- メッセージサービスの利用
  - メッセージサービスについて
  - ウォークスルー1 : メッセージ宛先の設定の確認
  - メッセージの送信
  - ウォークスルー2 : メッセージの送信
  - メッセージの受信と処理
  - ウォークスルー3 : メッセージの受信と処理
  - 複雑なデータの送受信
  - ウォークスルー4 : 複雑なデータの送受信
  - メッセージフィルタリングの実装
  - ウォークスルー5 : メッセージフィルタリングの実装
  
- Flash Builder の各種開発ツールの利用
  - ログイングの利用
  - デバッグの実行
  - ウォークスルー1 : デバッグ、ログイング、および条件付きブレークポイント
  - プロファイラについて
  - ウォークスルー2 : アプリケーションのプロファイリング
  - ウォークスルー3 : ネットワークモニター の利用
  
- モデル駆動型開発によるアプリケーション開発
  - LCDS のモデル駆動型開発のメリット
  - ウォークスルー1 : 環境設定
  - データモデルの作成と使用
  - ウォークスルー2 : データモデルの作成とデータの表示
  - モデルにプロパティを追加
  - ウォークスルー3 : 派生プロパティの作成

- フォームでのスタイルの利用
  - ウォークスルー4 :  
スタイルを使用したフォームプロパティのフォーマットと検証
  - 返されるデータのフィルタリング
  - ウォークスルー5 : データのフィルタ
- 
- 高度なモデル駆動型開発テクニックの実装
    - ウォークスルー1 : バリエーションの実装
    - リソースバンドルを利用したローカライゼーション
    - ウォークスルー2 : フォームのローカライズ
    - フォームジェネレーターテンプレートの変更
    - ウォークスルー3 : フォームの ComboBox を List に変更
    - サーバー側 Java コードの生成
    - ウォークスルー4 : サーバー側 Java コードの表示